

環境と健康

平成24年度 地球温暖化対策地域協議会活動支援事業

各地でユニークな取り組みを実践

脱温暖化のまちづくりを目指して

脱温暖化センターひろしまでは、地球温暖化対策地域協議会(以下、TEAM)の組織強化や地球温暖化防止活動推進員の力量形成を図りながら、県民と一緒に脱温暖化のまちづくりを推進するため、各TEAMに六万円を上限とする助成を行う。

募集の結果、十九TEAMから応募があり、全てが採択された。その中からいくつかを紹介する。

◆自転車都市づくりを考える市民フォーラム(広島市)

地球温暖化対策地域協議会(以下、TEAM)は、温室効果ガス排出量の約四割を占める車。車から自転車への転換を促進し、「自

転車都市」の実現を目指すためフォーラムを開催。市民にライフスタイルの見直しを提案するとともに、自転車都市の実現に向けた具体的なアイデア出しを行う。

◆竹炭・竹酢液活用研究会「エコINNくろせ」

地元で問題となっている放置竹藪の竹を使って竹炭や竹酢液を作り、有効な活用法を研究する。具体的には、河川の浄化に活用し、ホテルの舞う里山づくりやメダカの棲める小川の再生を目指すほか、稲・野菜・花木の防虫防除にも役立てる。また、これらを地域住民と協働実施すること、低炭素な町づくりを考へていく。



7月8日に実施された自転車都市を目指すフォーラム

啓発活動を開始し、今年で四年目を迎える栽培講習会や緑のカーテンマップの作成・配布、小学校への環境出前講座などを通じて、緑のカーテンの効果や温暖化の現状について、一歩一歩、見える化を進め脱温暖化活動への意識づけを促進し、低炭素社会づくり実現を目指す。

現在、各TEAMがそれぞれの地域特色を生かしたユニークな活動を実践中である。今回応募のあった事業は、十一月二十三日に開催される「二〇一二年温暖化ストップフェア」で発表し、県民に広く周知する予定だ。

(脱温暖化センターひろしま)

● 助成金申請TEAMと活動内容 ●

1 府中町脱温暖化市民協議会	緑のカフェコンテスト、小学校見える化プロジェクト事業、エコネット事業
2 広島市地球温暖化対策地域協議会	自転車都市づくりを考える市民フォーラム
3 くれ環境市民の会	自販機市販飲料から考えるエコ
4 脱温暖化めまぐらフォーラム	「もったいない」を合言葉にCO2削減に挑戦!
5 脱温暖化ネットおんど	清盛清掃隊 空き缶リサイクル事業
6 大崎上島けんこう文化の島づくり協議会	アイドリグストップ!キャンペーン
7 地球温暖化対策はつがいちさくら協議会	海・山・島をめぐるエコcaféキャラバン2012
8 エコINNくろせ	竹炭・竹酢液活用研究会
9 布野の食と脱温暖化を考える会	緑のカーテン事業
10 ひがしひろしま環境家族	太陽エネルギーを活用しよう!
11 脱温暖化プロジェクトせら	せらの七種物語
12 くい環境会議	エネと環境フェスタ in久井
13 海田町地球温暖化対策地域協議会	緑のカーテンづくり事業4年目
14 脱温暖化・門田地域協議会	生活に役立つエコライフ講習会
15 栗原地区地球温暖化対策地域協議会	地域みんなで温暖化防止活動の推進事業
16 脱温暖化笑コきたひろ	集まれ!エコで団らんプロジェクト
17 エコネットたけはら	アイドリグストップ事業
18 かんきょう会議 浮城	美しいみどりを活かすまちづくりプロジェクト
19 しのうエコ推進会	脱温暖化の啓蒙とその実践

国土交通大臣賞に「くい環境会議」

久井で暮らせる喜び伝えたい

くい環境会議が、平成24年度まちづくり功労者国土交通大臣賞を受賞し、表彰された。

していたホテルの復活を目指し、ホテルの生息地調査を実施。住民からもホテルの発生情報を集め、翌年には1枚のマップにまとめた。マップは、久井町の全戸及び学校に配布。また、ホテル祭りを2会場で開催し、住民に久井の貴重な自然を再発見してもらうとともに、自然への関心を高めた。



表彰状を持つのが小島代表

これは、魅力ある町づくりの推進につとめ、著しい功績をあげた団体や個人に贈られるもので、29の団体・個人が表彰され、広島県からは同会議が選ばれた。

くい環境会議は、県内17番目の地球温暖化対策地域協議会として、平成20年11月に発足。久井の玄関口にあたる坂井原地区の御調川(みつぎがわ)付近は、長年、雑木や草木で見通しが悪く、不法投棄ごみも多量に堆積するなど問題となっていた。そこで、地元住民と連携し、年2~3回ごみの回収や雑木の伐採など、河川的环境整備活動に取り組んだところ、ごみは大幅に減り景観も美しく生まれ変わった。この生まれ変わった空間を『落合溪谷』と名付け、看板を設置した。引き続き、地域住民と連携しながら景観を守っていこうとしている。

さらには、絶滅のおそれのあるヒョウモンモドキの保護活動にも協力するなど、環境の大切さや久井の里山と生き物の魅力を訴え、住民の関心を得たことが総合的に評価され、今回の受賞につながった。

同会議のメンバーには、7月8日に実施した「夏のエコライフ研修会」の場で受賞の報告がなされ、小島代表は、「これからヒョウモンモドキの保護など、里山保全活動を通じて、豊かな自然が残る久井町で暮らせる幸せを、子どもたちに伝えていきたい。」と意気込みを語った。

地域住民との連携を大切に、さらなる活躍に期待したい。

また、平成21年には、久井地域に乱舞

(脱温暖化センターひろしま)

さんせんか 琴線歌

環境を測ることは案外むずかしい。土はどこにでもある。遊園地、公園、農地、山林など、どこをどう探ればよいのか。それなりのマニュアルもあるが、一応の訓練のない人にはやはりむずかしい。日本の国土の三分の二は森林である。当然、放射性物質も三分の二は森林に落下する。まずは葉面に付着する。季節が来れば、落葉枝として地上に落下し、一緒に放射性物質も地上に落下する。落葉枝は、物理的、化学的及び生物学的に分解されて土となる。土になった物質は、再び地表に近い樹木の根系から樹木に吸収される。つまり、森林はゆるい閉鎖系で絶えず循環している。だから森林は農地と違い、施肥はしない。森林に降下し

環境を測るとは

なぜなら森林を伐採し、表土を除き、裸地にするほかはないし、それでも裸土壌に放射能が残らないという保証はない。今後、長年月、こうした森林の放射能汚染と付き合わねばならない。そのためには、放射能汚染の状況を知りたい。さてどう測るか。

(愛媛大学・高知大学名誉教授 立川 涼)

環境と保健の未来をめざして

財団法人 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号 (広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表]

FAX:082(293)1520

かんぽきょう

検索

